

フリースクールカシオペアの感想

K・I(高校生保護者 2025年11月記す)

通信制高校に通いながら、学校が休みの日に隔週、フリースクールカシオペアを利用させていています。目的はアサヒキャンプ利用時に子どもがヤマカンさん(中久木先生)のことを大好きだと感じていたことです。社会に出るまでの時間が残り少なくなり、保護者として何ができるか。学校、福祉施設とは別のヤマカンさんとの時間、人生のご褒美として、カシオペアを利用させて頂きたいと考えました。ヤマカンさんも、はじめは??みたいな感じでしたが、受け入れて頂き感謝しています。

「ニュースがわかる日本地図」「旅に出たくなる日本地図」等で地図や統計資料を見ながら、気になることを話します。歴史や地理、社会問題等、人間社会の知識を掘りつつ、少しずつ自分の生活に当てはめて考えています。地図の話から子どもはどこかに出かけることに対し、保護者に連れて行ってほしいと思っているのではなく、自分で自分の友達と行くことを願っていることを知ります。漢検を受ける前は漢字の問題をすすんでやり、問題を解くだけでなく、その中の熟語の意味やそこから松尾芭蕉やほ乳類の話に拡がり、知識を拡げます。

ときにはやりたいことと、それに付随する問題、自由と責任について話しています。高校生になり行動範囲が拡がり、スマホの管理は重要な課題です。使用責任、最悪のことを考え、日頃からその対処法について考えておくことはいざという時に対処しやすいこと、その答えがどうしても見つからないときは信用できる人を二人以上確保して相談することが大事だと話してくれています。

学校でも家庭でもない関係であり、先生ではあるものの、キャンプでの時間を共にしてきた仲間のような部分もあり、子ども自身が納得していると思って見えています。悪いことに会う、病気や事故、ケガ、防ぐことも少しずつ考えています。まだまだ現実の事とは考えられないこと、保護者ではうるさいと感じることも話が進みます。

会話の中で、お金、仕事と健康の話題にもなります。お金の使いすぎ、働きすぎ、健康の大切さ、相談の重要性、幅広い対話で知識と教養につながり、それが判断につながります。

キャンプ後は思い出を話します。保護者には話すことはほとんどないですが、どんどん子どもたち、学生さんたちの名前が出ます。話しながら苦手な作文をヤマカンさんと一緒に書きます。自分だけで作文を仕上げることは難しく、苦手なことをさせるのか？と何かを察した雰囲気になります。会話をしながら、促され誉められ励まされ、スモールステップで作文が出来上がります。対話を通じて、そのときの記憶や感情をたどり、どの部分を楽しいと思ったか、気になったことは何か？と振り返りをしています。子どもたち、学生さんたちとの時間が思い出となって心に残り、アサヒキャンプが楽しく意義ある経験だと保護者にも伝わります。

子どもはカシオペアに対し意欲的であり、その上で何をどこまでやるかを受け入れて頂ける安心感の保証がされる時間です。その感覚は将来、働くことや生活の部分でも自分で判断し、周りの方に自分の意見を伝えることにつながると思います。気分転換として卓球をすることがありますが、うまくいなくても、続けているとうまくなるよ、とおっしゃるその言葉はすべてのことに通じるおまじないのようです。ヤマカンさんの、みんなちがっていいんだよ、これやっとくと得だよ、の言葉も子どもの中に少しずつ入っていると思います。何より、子どもに対するヤマカンさんの姿、言葉は本人支援だけでなく、保護者支援であり、自分を見つめ直す機会です。

天然温泉湯吉郎の話になった時に名前の由来が木下藤吉郎であることをわかっていたのに驚きました。行ったことある場所、知っていることがつながり、会話が進む姿は成長を感じられます。

カシオペアで過ごした時間が、違う場面でおしゃべりを楽しむ豊かな人生、いろんな可能性につながることを願います。信用できる人を頼ることが、親が頼れない状況、親なきあとで活かせればと願います。今後社会に出て働くことになりましたが、できることとできないこと、相談、働きすぎない、健康という視点は自分を守ることににつながると思います。いつもありがとうございます。